

松下幸之助記念財団 研究助成

## 研究報告

(MS Word データ送信)

## 【氏名】

橋本 由紀

## 【所属】(助成決定時)

一橋大学経済研究所

## 【研究題目】

日系ブラジル人労働者の帰国後の再就職に関する実証研究

## 【研究の目的】(400字程度)

本研究では、金融危機(リーマン・ショック)後にブラジルに帰国した日系人に着目し、どのような属性の者が帰国を選んだのか、また、彼(女)らが日本で身に付けたどのような技能が、ブラジルでの再就職に結びついたのかを明らかにする。金融危機以前、日系人の多くは、自動車や電機部品組立てなどの製造業現場で、派遣・請負労働者として就労していた。ところが、2008年夏以降、多くの日系人労働者が、日本人労働者に先んじて解雇(契約の未更新も含む)された。失業した日系人労働者の一部は、母国へ帰国し、日本に居住するブラジル国籍者は、金融危機前の約30万人から、2011年の約20万人にまで減少した。短期間で約3割ものブラジル人が日本を去る過程で、どのような学歴や日本での職歴、家族構成等をもつ者が帰国を選んだのか、また、日本での就労を通じて得た技能がブラジルでの再就職時にどの程度評価されたかについて、定量的に分析することが、本研究の目的である。

## 【研究の内容・方法】(800字程度)

ブラジルの帰伯労働者情報支援センター(NIATRE)は、ブラジル労働雇用省の後援を得たデカセギ帰国者の再就職支援組織として、2011年にサンパウロ市で設立された。NIATREの主な活動は、センター来訪者への労働相談と再就職斡旋であるが、NIATREは労働雇用省へ活動成果を報告するために、相談者の教育や職歴に関する情報を調査、集計している。この情報を入手、データベース化し、計量経済学の手法を用いて定量分析することで、帰国移民の学歴や職歴等の特徴を明らかにする。

研究を始めるにあたり、NIATREが保有する調査資料を学術目的で二次分析する許可を、NIATRE代表から得た。その上で2014年3月、ブラジルに渡航し、NIATREでコーディネーター(相談係)を務める松浦氏から、2011年1月から2014年2月までの相談者約2,800名の相談概要を入力したデータ(NIATREデータ)の提供を受けた。さらに、ブラジル日本交流協会会長兼サンパウロ大学法学部教授の二宮正人氏、日本政府からCIATE(国外就労者情報援護センター)に派遣されて日系人の就労相談を行う大嶽達哉弁護士などへの聞き取り調査も行い、帰国日系人の再就職状況に関する情報を得た。

NIATREデータは、クロスセクション形式に整理し、帰国者の特徴を捉えることから分析を始めた。データの基本統計量を集計した結果、帰国者の性別や年齢、学歴、日本での居住地や職業、日本語能力に関する特徴が判明した。しかしながら調査の過程で、相談者のブラジルでの再就職先については、NIATREの予算不足を理由に、約1割程度しか把握できていないことがわかった。この情報は本研究目的の遂行上、きわめて重要な意味を持つことから、現在、所属大学からの研究助成を得て、ブラジル人研究協力者の助力のもと電話による追加調査を行い、相談者の再就職先情報の収集を行っている。

## 【結論・考察】(400字程度)

研究課題の一つ目「どのような学歴や日本での職歴、家族構成等をもつ者が帰国を選んだのか」に関しては、分析の結果、暫定的ではあるがおおよその特徴が分かった。自動車組立や電気部品製造業企業で働いていた者が

多いことは予想と整合的だったが、日本語能力が低くなく、職場で技能を蓄積してきたと想定される 10 年以上の長期滞在者が、帰国者の中で高い割合を占めていたことは意外であった。一方で、NIATRE データの再就職企業に関する情報が十分ではなかったため、「日本での就労を通じて得た技能がブラジルでの再就職時にどの程度評価されたか」という二つ目の研究課題にはまだ取り組むに至っていない。現地支援担当者への聞き取り調査では、日本で蓄積した技能が評価されるよりも、ブラジルを長く離れていたことによる不利益が上回り、相談者が望むような仕事には就けない者が多いとのことであった。1,000 人程度の再就職先が判明した段階で、回帰分析を行い、聞き取り調査で得られた情報との符合を確認したいと考えている。